

令和7年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	自転車駐車場整備費	所管課 (旧所管課)	道路下水道総務課 (道路河川総務課)
まちづくりテーマ			
1安全で安心な暮らしを築く			

2 施策概要・指標

事業目的及び必要性
放置自転車の解消を図るとともに、歩行者の安全かつ円滑な通行の確保や、自転車等利用者の利用環境の向上を図ることを目的とし、駐輪需要が高く自転車等駐車場が不足している駅周辺の自転車等駐車場の整備を行う。
2030年又は事業終了時の望ましい姿
官民連携により駐輪場整備が促進され、駐輪需要が満たされている。また、大型自転車等の駐輪スペースの拡充や多様化した駐輪ニーズへの対応、新基準準付に対応したスペースの確保を行うことで、自転車等の利用環境と利用者の利便性が向上している。
関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」
① 道路や施設が誰でも利用できるものであること
②

3 指標の推移

	単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
意識調査結果	①	点	3.36	3.34	3.45
	②				

市民意識調査以外の市民ニーズの把握方法及びその内容

施設の運営等に関するアンケート調査を自転車利用者の多い藤沢駅、辻堂駅周辺で実施した。アンケート結果では、駐輪場の増設・拡大、自転車の大型化にあわせた施設整備が求められている。

EBPMなど政策の立案や効果測定に必要なデータ等

市営有料自転車等駐車場の収容台数。放置自転車等実態調査による放置自転車台数。

社会情勢等

本市の人口予測では2035年まで人口増加が見込まれ、自転車等の利用者についても増加する傾向にある。電動アシスト自転車や子供乗せ自転車など、自転車の大型化や重量化が進んでおり、間隔の広い駐輪スペースが求められている。

他市等の事例(本市の独自性があればその内容)

令和6年度(参考)	横須賀市	平塚市	茅ヶ崎市	藤沢市市営駐輪場箇所数	28箇所	18箇所	10箇所	33箇所収容台数
	8,769台	11,619台	12,426台	13,784台放置自転車	232台/日	8台/日	3台/日	73台/日

把握した市民ニーズ、議会からの意見等への対応

電動アシスト自転車や子供乗せ自転車等大型化した自転車の収容スペースの確保として、既存駐輪ラックの改修工事を行い、思いやりスペースの増設と、大型化に対応した駐輪ラックを新たに整備した。機械化を行った駐輪場の満空情報をリアルタイムにWeb上で確認できるようにした。

4 施策の評価

まちづくりコンセプトとの整合性とその理由

まちづくりコンセプト サステナブル藤沢 インクルーシブ藤沢 スマート藤沢

自転車を利用しやすい安心・安全な環境づくりに取り組み、自転車利用を促進していくことで、健康増進につながる効果や、低炭素型社会の構築に向けた都市づくりにつながっていくため。

貢献する主なSDGsのゴール

①	すべての人に健康と福祉を
②	住み続けられるまちづくりを
③	パートナーシップで目標を達成しよう

関連する計画の有無(ある場合は計画の名称)

有無	有
----	---

「ふじさわサイクルプラン」(藤沢市自転車活用推進計画)

令和7年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	一色川改修費	所管課 (旧所管課)	河川水路課
まちづくりテーマ			
1安全で安心な暮らしを築く			

2 施策概要・指標

事業目的及び必要性
<p>浸水被害の軽減を図り、流域住民が安心して暮らせるまちの実現のため、1時間当たり50mmの降雨に対応した河川改修を行うもの。流域の都市化の進展や気候変動に伴う豪雨が頻発していることから、治水対策の重要性はますます高まっており、洪水等の被害から市民生活を守るために必要な事業である。</p>
2030年又は事業終了時の望ましい姿
<p>一色川流域での浸水被害が解消されている。</p>
関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」
① 災害に対して、市民が不安なく暮らせていること
②

3 指標の推移

		単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度
意識調査結果	①	点	3.12	3.17	3.09
	②				

市民意識調査以外の市民ニーズの把握方法及びその内容

<p><把握方法> 河川沿川の住民からの要望・聞き取り 工事説明会・事業説明会(平成30年度、令和3年度、令和6年度に六会地区郷土づくり推進会議等に周知) <把握内容> 洪水発生時の情報提供や車両避難場所の確保をして欲しい。 早く河川改修を実施して欲しい。</p>
--

EBPMなど政策の立案や効果測定に必要なデータ等

<p>氾濫防止面積、降雨データ、水位データ</p>

社会情勢等

<p>都市化の進展や気候変動に伴う豪雨が頻発し治水対策の重要性が高まっている。引地川では、特定都市河川浸水被害対策法に基づく特定都市河川(平成26年2月)の指定、引地川流域水害対策計画(平成27年6月)の策定が実施され、これらに基づく対策が継続中。今後も都市化の更なる進展や気候変動の影響等により、水災害に対する市民の期待は高まると想定。国や県でも流域治水(流域の関係者が協働して水災害対策を行う考え方)の取組として一・二級河川の流域治水プロジェクトが策定されハード・ソフト対策が進行中。</p>
--

他市等の事例(本市の独自性があればその内容)

<p>他の自治体の準用河川の改修についても、本市と同様な方法で進められている。</p>

把握した市民ニーズ、議会からの意見等への対応

<p>ソフト対策:浸水履歴のある3地点に警報装置を設置し注意喚起している。また、河川監視カメラを設置しリアルタイムに状況把握することで迅速な対応ができた。さらに、沿川自治会等に協力を得て公園等に車両避難場所を確保した。ハード対策:「準用河川一色川整備基本計画」(平成28年7月)に基づき、第一段階として最下流の橋りょう架替工事や護岸改修工事を実施した。現在、第二段階の完了に向け、引き続き、計画的に橋梁架替工事等を実施している。</p>
--

4 施策の評価

まちづくりコンセプトとの整合性とその理由

まちづくりコンセプト	<input checked="" type="checkbox"/> サステナブル藤沢	<input type="checkbox"/> インクルーシブ藤沢	<input type="checkbox"/> スマート藤沢
------------	--	------------------------------------	---------------------------------

<p>「準用河川一色川整備基本計画」に基づき、一色川流域内で頻発している浸水被害に対して段階的に改修効果が発現できるよう事業進捗を図っており、治水対策を計画的に進めることで、気候変動に伴う自然災害に対する強靱性とその影響を軽減させる対策を講じる。このことにより持続可能なまちづくりを実現するもの。</p>
--

貢献する主なSDGsのゴール

①	貧困をなくそう
②	住み続けられるまちづくりを
③	気候変動に具体的な対策を

関連する計画の有無(ある場合は計画の名称)

有無	有
----	---

<p>「藤沢市地域防災計画」(令和6年1月)、「藤沢市地域防災対策アクションプラン」(令和7年3月)、「藤沢市国土強靱化地域計画」(令和7年3月)、「藤沢市環境基本計画」(令和4年3月)、「藤沢市地球温暖化対策実行計画」(令和4年3月)、「藤沢市雨水管理総合計画」(令和4年12月)</p>

令和7年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	市道新設改良費	所管課 (旧所管課)	道路整備課
まちづくりテーマ			
1安全で安心な暮らしを築く 4都市の機能と活力を高める			

2 施策概要・指標

事業目的及び必要性
(自転車通行空間整備)歩行者、自転車、自動車とともに安全で快適に通行できるよう、車道の一部を活用した整備を行う。(藤沢652号線)歩道のバリアフリー化や無電柱化、自転車通行空間整備などの道路改良により、広域的な交通ネットワークが推進される。併せて、国から「改良すべき踏切道」に指定されている藤沢本町1号踏切道を廃止し、自由通路や市民要望の強い西口改札を新設する踏切道改良事業を実施することで、市民の安全性向上を図る。
2030年又は事業終了時の望ましい姿
(自転車通行空間整備)市内の自転車ネットワーク路線及び重点とする鉄道駅周辺の自転車通行空間整備が完了し、生活を支える身近な交通手段である自転車の利用環境が向上する。(藤沢652号線)歩道や自転車専用通行帯整備及び藤沢本町1号踏切道改良事業により、市民の安全性が図られることに加え、旧東海道街なみ継承地区である藤沢652号線の一部区間の無電柱化が図られる。
関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」
① 道路や住宅の整備
②

3 指標の推移

		単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度
意識調査結果	①	点	2.84	2.78	2.87
	②				

市民意識調査以外の市民ニーズの把握方法及びその内容
(自転車通行空間整備)周辺地域に町内会を通して説明会を実施している中で、自転車通行空間整備が完了したことや利用方法に関しての周知をしっかりと行って欲しいなどの意見をもらっている。(藤沢652号線)令和4年度までは沿道の自治町内会、商店街、郷土づくり推進会議のメンバーで構成される道路計画検討会議等で意見交換を行い、令和6年度からは道路改良事業等連絡協議会を発足し意見交換を行っている。
EBPMなど政策の立案や効果測定に必要なデータ等
(自転車通行空間整備)交通事故件数 (藤沢652号線)踏切歩行者等交通遮断量
社会情勢等
(自転車通行空間整備)健康増進や日常生活の身近な移動手段として自転車利用は増加傾向にあり、通行空間の確保が求められている。(藤沢652号線)歩道の段差解消や拡幅等、道路のバリアフリー化や自転車通行空間の整備が求められている。災害後の避難路の確保、安全かつ円滑な交通の確保、良好な景観の形成等を図るため無電柱化の推進が求められている。
他市等の事例(本市の独自性があればその内容)
(自転車通行空間整備)他市等においても同様の取組が行われている。(藤沢652号線)他市等においても同様の取組が行われている。
把握した市民ニーズ、議会からの意見等への対応
(自転車通行空間整備)歩道走行や車道逆走等が見受けられるなど、自転車通行空間の利用方法が周知しきれていないといった意見等を踏まえ、効果的な啓発方法について、防犯交通安全課などの関係部署や警察などと引き続き協議していく。(藤沢652号線)地元要望である西口改札の新設を早期に実現できるよう、鉄道事業者と協議を行っている。

4 施策の評価

まちづくりコンセプトとの整合性とその理由	
まちづくりコンセプト	<input checked="" type="checkbox"/> サステナブル藤沢 <input type="checkbox"/> インクルーシブ藤沢 <input type="checkbox"/> スマート藤沢
(自転車通行空間整備)自転車を利用しやすい安心・安全な環境づくりに取り組み、自転車利用を促進していくことで、健康増進につながる効果や、低炭素型社会の構築に向けた都市づくりにつながっていくため。(藤沢652号線)歩道のバリアフリー化や自転車通行空間の整備、無電柱化を進めることで、交通の利便性が向上し、本市の総合的な暮らしやすさを高めるため。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	すべての人に健康と福祉を
②	住み続けられるまちづくりを
③	
関連する計画の有無(ある場合は計画の名称)	
有無	有
ふじさわサイクルプラン(藤沢市自転車活用推進計画)、ふじさわサイクルプラン(藤沢市自転車活用推進計画)【実施計画】、藤沢市無電柱化推進計画、地方踏切道改良計画	

令和7年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	長後地区整備事業費	所管課 (旧所管課)	道路整備課 (都市整備課)
まちづくりテーマ			
4都市の機能と活力を高める			

2 施策概要・指標

事業目的及び必要性
長後地区のまちづくりの課題である駅周辺の交通混雑の緩和や、災害に強いまちづくりの実現のために必要な都市計画道路の整備や、道路利用者の安全性を確保する歩道整備事業を実施する。
2030年又は事業終了時の望ましい姿
市道147号線の整備が完了し、長後駅周辺の交通混雑が緩和される。また、長後725号線の歩道整備事業が完了し、歩行者などの安全性が向上している。このような都市基盤整備が進むことで、長後地区の地域住民の安全で安心な暮らしと多彩な活動が支えられ、誰もが住み続けたいまちの実現が図られる。
関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」
① 道路や住宅の整備
②

3 指標の推移

		単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度
意識調査結果	①	点	2.84	2.78	2.87
	②				

市民意識調査以外の市民ニーズの把握方法及びその内容
長後地区整備促進委員会や長後西口地区まちづくり検討委員会におけるまちづくりに関する地域住民との意見交換や、郷土づくり推進会議全体集会やアンケートで寄せられる市の長後地区の基盤整備に対する取組姿勢等に対する意見・苦情等。
EBPMなど政策の立案や効果測定に必要なデータ等
交通量調査・パーソントリップ調査・交通事故件数・踏切自動車交通遮断量
社会情勢等
市民の安全で安心な暮らしと多彩な活動を支え、誰もが住み続けたいまちの実現が求められている。長後駅周辺の渋滞緩和や交通安全対策、地域活性化等に資する取組が急務であるが、特定財源である国庫補助金、特に社会資本整備総合交付金(防災安全交付金)は内示率が低いことや、資材・人件費の高騰など、先行きを見通すことが難しい。
他市等の事例(本市の独自性があればその内容)
既存道路への歩道整備については、他市等も本市と同様の手法で進められている。市道147号線については、踏切の周辺整備という位置付けで踏切道改良計画事業補助制度に採択されたことで、国庫補助金については比較的高い内示率が見込まれる。
把握した市民ニーズ、議会からの意見等への対応
地元要望の強い長後725号線歩道整備事業は、令和12年度を目途に優先整備区間の完成をめざす。また「丁寧な地元調整を行うこと」という議会からの意見も踏まえ、「長後西口地区まちづくり検討委員会」「長後地区郷土づくり推進会議」「長後地区全体集会」「長後地区整備促進委員会」などの開催・参加による意見交換会等により、道路事業の説明を行い、事業に対する不安や意見等を把握している。

4 施策の評価

まちづくりコンセプトとの整合性とその理由	
まちづくりコンセプト	<input checked="" type="checkbox"/> サステナブル藤沢 <input type="checkbox"/> インクルーシブ藤沢 <input type="checkbox"/> スマート藤沢
長後地区は骨格的な道路網の構築が不十分なため、駅周辺を目的とする交通と通過交通が集中することにより、駅周辺において朝夕を中心に混雑している。市民の安全で安心な暮らしと多彩な活動を支え、誰もが住み続けたいまちの実現を図るため、都市基盤の整備を進める必要がある。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	住み続けられるまちづくりを
②	
③	
関連する計画の有無(ある場合は計画の名称)	
有無	有
藤沢市道路整備プログラム、藤沢市無電柱化推進計画、地方踏切道改良計画	

令和7年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	善行長後線街路新設事業費	所管課 (旧所管課)	道路整備課
まちづくりテーマ			
4都市の機能と活力を高める			

2 施策概要・指標

事業目的及び必要性
本路線は、小田急江ノ島線善行駅西口と長後駅西口を結び、路線延長約5,900mの補助幹線道路として、国道467号と交通機能の分担や地区の避難路等、災害時の防災機能を高める効果が期待される。また、六会工区は、近接する六会小学校のスクールゾーン内に位置しており、通学路交通安全プログラムに基づく点検結果を踏まえて公表された危険箇所となっていることから、都市計画道路の整備に併せた通学路の見直しを行うことで、通学路の安全が確保される。
2030年又は事業終了時の望ましい姿
善行長後線の未整備区間が完成することで補助幹線道路として機能し、国道467号に集中する交通負荷を分担する。また、善行駅、六会日大前駅、湘南台駅、長後駅へのアクセス向上、災害時の避難経路機能の向上が図られる。さらに、六会小学校の通学路を含めた歩行者の安全性の向上が図られる。
関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」
① 道路や住宅の整備
②

3 指標の推移

		単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度
意識調査結果	①	点	2.84	2.78	2.87
	②				

市民意識調査以外の市民ニーズの把握方法及びその内容
「道路に関する市民意識調査」を実施した。幹線道路の優先整備にあたって、幹線道路が有する「自動車の交通機能」、「駅等へのアクセス機能」、「歩行者の交通機能」、「自転車の交通機能」、「防災機能」のうち、どの機能を重視するかという設問に対して、「防災機能」「歩行者の交通機能」を重視する傾向があった。また、周辺地域に工事説明会を実施し、早期完成を望む意見をもらっている。
EBPMなど政策の立案や効果測定に必要なデータ等
通学路危険箇所対策要望
社会情勢等
本市の都市計画道路は、2025年4月現在で、計画延長162.5kmのうち約77.6%、延長にして約126.1kmが整備済みで、約11.4%、延長にして約18.5kmの路線は事業中路線や概成(計画幅員の大半が整備され供用している路線)という状況である。このため、都市計画道路等のネットワークが完成していないことによってさまざまな課題が存在している。
他市等の事例(本市の独自性があればその内容)
他市等においても同様の事業が行われている。本市の都市計画道路整備の優先度は、本市が抱える課題を解決するかといった「有効性」と「費用対効果」の2つの観点から検証を行った「藤沢市道路整備プログラム」を作成して今後の概ねの着手時期を示し、幹線道路の実施計画としている。
把握した市民ニーズ、議会からの意見等への対応
通学児童の安全な通行や地域交通の円滑化、各鉄道駅のアクセス向上等が期待されることから、令和6年の供用開始を目指し、実現した。

4 施策の評価

まちづくりコンセプトとの整合性とその理由	
まちづくりコンセプト	<input checked="" type="checkbox"/> サステナブル藤沢 <input type="checkbox"/> インクルーシブ藤沢 <input type="checkbox"/> スマート藤沢
歩道のバリアフリー化や自転車通行空間を整備することで、交通の利便性が向上し、本市の総合的な暮らしやすさを高めるため。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	すべての人に健康と福祉を
②	住み続けられるまちづくりを
③	
関連する計画の有無(ある場合は計画の名称)	
有無	有
藤沢市道路整備プログラムふじさわサイクルプラン(藤沢市自転車活用推進計画)【実施計画】	

令和7年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	道路安全対策費	所管課 (旧所管課)	道路維持課
まちづくりテーマ			
1安全で安心な暮らしを築く			

2 施策概要・指標

事業目的及び必要性
交通事故を防止し安全で円滑な道路交通を確保するため、道路パトロール、通学路合同点検や市民要望等に基づき、道路反射鏡や道路区画線標示など既存安全施設を維持管理するとともに、滋賀県大津市での交通事故をきっかけに安全対策が必要な交差点への車止め等の安全施設を整備する。
2030年又は事業終了時の望ましい姿
市民、警察、行政が一体となり、交通事故のない安全で安心なまちづくりが進められている。
関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」
① 犯罪のない安全なまちであると感じますか？
②

3 指標の推移

	単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
意識調査結果	①	点	3.26	3.32	3.29
	②				

市民意識調査以外の市民ニーズの把握方法及びその内容
通学路合同点検:年1回開催、電話・メール・窓口・LINE等による市民要望受付

EBPMなど政策の立案や効果測定に必要なデータ等
一例として、安全で円滑な道路交通を確保するため、信号機のない横断歩道への安全対策として、歩行者横断点滅機の設置令和4年度に設置した箇所の事前調査時の一時停止率60.6%、設置1年後には82.8%、設置2年後には68.7%、また、令和5年度に設置した箇所の事前調査時の一時停止率44.8%、設置1年後には67.1%

社会情勢等
滋賀県大津市、千葉県八街市等の他市で発生した交通事故を受け、市内での車止め及び道路反射鏡の設置や道路区画線標示・横断防護柵等の安全対策に対する要望は増加傾向にある。

他市等の事例(本市の独自性があればその内容)
他市においても、滋賀県大津市等の事故を受け、保育所等の施設、各道路管理者、警察等の関係機関が連携して緊急安全点検を行うとともに、対策の必要な箇所について車止め等の設置を行っている。また、本市では保育所等が行う散歩等の園外活動の安全確保を図るため、子ども青少年部が設定したキッズゾーンへの路面標示等の設置を行っている。加えて、信号機のない横断歩道でドライバーに注意を促し、歩行者の存在を知らせるための歩行者横断点滅機の設置を行っている。

把握した市民ニーズ、議会からの意見等への対応
道路区画線標示等の安全施設の補修については、速やかに実施しているが道路反射鏡の設置については、現場に応じた必要性を検討し判断している。歩行者横断点滅機の設置数の拡大については、設置箇所での安全性を検証し、関係部門と調整を図り検討を進めていく。交通管理者が実施する横断歩道などの路面標示の早急な対応については、これまでも市施工の路面標示と施工時期を合わせられるよう、協議調整を図ってきており、引き続き交通管理者と調整を図っていく。

4 施策の評価

まちづくりコンセプトとの整合性とその理由
まちづくりコンセプト <input checked="" type="checkbox"/> サステナブル藤沢 <input type="checkbox"/> インクルーシブ藤沢 <input type="checkbox"/> スマート藤沢
本市の総合的な暮らしやすさを維持向上するための取組の一つとして、道路の交通安全対策を行うことにより、住んでみたい、住み続けたいと思える藤沢を築く。
貢献する主なSDGsのゴール
① すべての人に健康と福祉を
② 住み続けられるまちづくりを
③
関連する計画の有無(ある場合は計画の名称)
有無 無